

安全・安心は家庭から

交通安全標語コンクール優秀作品

横断は 危険がいっぱい 気を付けて
 小澤 由芽(長岡北小)
 登下校 広がらないで 歩こうよ
 工藤 光優(大仁小)
 大切な 命は自分で 守るもの
 藤原 和乃(葦山小)

市役所地域づくり推進課 ☎ 055-948-1412

ピースケ



【大仁警察署から】

大仁署管内では、今年の6月末までに自転車盗が18件と、前年に比べて11件もの大幅な増加となっています。

そのうちの7割の自転車が、無施錠で被害に遭っています。被害に遭って後悔する前に、施錠の一手間を惜しまず、自分の自転車は自分で守りましょう。

わずかな時間でも必ず「ツーロック」



第4回伊豆長岡温泉

よりとも政子バル

お得なチケットを片手に、伊豆長岡温泉を満喫できる特別な2日間！

10月4日(土)・5日(日) 両日とも 11時～24時
 ※営業時間は参加店舗によって異なります。

チケット販売

前売り 3500円(5枚セット)

9月1日(月)から伊豆の国市観光協会、道の駅伊豆のへそ、参加店舗で販売開始。

当日 4000円

(5枚セット)

※インターネットでの予約販売あり

その他

10月4日(土) 17時30分から、アクシスカつらぎ前広場で、オープンングセレモニーを行います。詳細は、直接お問い合わせください。

伊豆の国観光協会 ☎ 055-948-0304
 よりとも政子バル公式ホームページ
<http://www.izunotabi.com/bar/>



図書館だより

今月のおすすめ ～イモ・カボチャ～

暑い日が続きますが、暦の上では秋。今回は、食べてもおいしく、他の楽しみ方もある、イモとカボチャに関する本を紹介します。



『おいしいもの本』
 河野雅子(著) / グラフ社

ジャガイモ、サトイモ、サツマイモ、ヤマイモを使ったおいしい料理。肉じゃがなどの定番料理から意外な組み合わせまで、1日1イモ料理に挑戦。【葦山】



『楽しい花の芋版画』
 小町谷新子(著) / 日貿出版社

「芋版」というと年賀状を連想しますが、実は、季節を問わず作成を楽しめます。イモの柔らかい質感を生かした絵はがきや挿絵が素敵な本。【中央】

■読み聞かせボランティア

図書館では、学校や保育園などからの申し込みに応じて、読み聞かせのボランティアを派遣しています。小中学生の皆さんは、朝の読み聞かせの時間に会ったことがあるかもしれません。おはなしの楽しさを届けてくれるボランティアの皆さん。読み聞かせボランティアに興味がある人は、中央図書館にお問い合わせください。



図書館カレンダー
 モバイル版QRコード



料理のレシピ本、イモやカボチャの知られざる物語もあります。
 『芋・栗・かぼちゃのお菓子レシピ 上白糖、乳製品を使わないナチュラル&ヘルシースイーツ 66』 検見崎聡美(著) / グラフ社【中央】
 『健康食かぼちゃ』 小林正夫ほか(著) / 農山漁村文化協会【中央】
 『ラジオがまいたかぼちゃのタネ』 山中勇(著) / 家の光協会【葦山】
 …NHKの「ラジオ深夜便」から始まった、カボチャの絆とは。

図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/> 中央図書館 ☎ 0558-76-5566 (月曜休館)

文化財通信

その111

瓦が語る伊豆の国の歴史

市役所文化振興課
 ☎ 055-948-1428

私 たちが暮らす今日の日本では、ほとんどの宅地で瓦屋根の家がみられます。

建物の屋根を覆う瓦の歴史は意外と古く、古代の日本では寺院や役所の一部の建物にしか葺かれることはありませんでした。そのため当時の人々にとって、瓦は特別なものであったと考えられます。そこで今回は、市内でもみつかっている古代の瓦について、紹介したいと思います。

今から1400年程前の西暦588年、奈良の飛鳥寺に瓦を葺いたのが国内で最初の瓦に関する記載として「日本書紀」にみることが出来ます。その後、聖武天皇の所願により仏教の浸透が国内で急速に広がり、国分寺を造営するための瓦生産が、全国で盛んに行われるようになります。つまり、古代の瓦が出土する場所は、古代のお寺か、役所に付属する建物、または瓦

を生産した窯跡の可能性が考えられるのです。

市内でも古代瓦がみられる場所がいくつか確認されています。長岡地区の花坂島橋古窯跡、窯の壇遺跡や大仁地区の宗光寺廃寺などがそれです。花坂古窯は、伊豆の国の中心であった三島の伊豆国分寺の瓦を焼いた窯跡とされており、古代の伊豆国の社会を支える重要な生産遺跡であると



宗光寺廃寺出土の平瓦
 (伊豆の国市所蔵)

考えられています。また、宗光寺廃寺は、瓦の年代から7世紀半ば以降、1300年以上前の寺院跡といわれています。このように、身近な場所でもなげなく目にする事ができる瓦からも、古の伊豆国の歴史を想い起こす事ができます。